

東京 TS ネット主催セミナーVol.20 開催レポート（2026 年 3 月 14 日開催）

2026 年 3 月 14 日（土）、東京都内にて「罪に問われた困難を抱える女性たちの支援」をテーマとしたセミナーが、対面とオンラインでハイブリッド開催されました。以下、セミナー内容についてご報告いたします。

冒頭では、札幌で様々な被害体験を抱える女性の支援に取り組む「NPO 法人リカバリー」代表・ソーシャルワーカーの大嶋栄子氏による基調講演が行われました。

講演内では、様々な被害体験を抱え精神的不調や生活上の困難を抱える女性を支援する施設「それいゆ」の事業内容から設立背景、そして施設利用者が抱える課題について紹介されました。

その中で印象的だった事は、施設修了後も地域で続いてしまう困難についてのお話です。例えば、薬物依存症の回復支援では、依存症に対応している医療機関があっても、覚醒剤の再使用やクレイビング（強い欲求）に即時対応できる場が極めて限られていること。また、家族関係の亀裂や虐待経験等の影響から、女性たちが第三者へ助けを求める体験が圧倒的に乏しく、適切な支援にたどり着けないこと。

改めて、複雑な要因が絡み合うことで困難が生じる状況を知り、女性たちの尊厳が保たれる包括的な支援の必要性を強く感じました。

続く事例報告では、「一般社団法人コンパスナビ」の堀田大人氏、「一般社団法人若草プロジェクト」の牧田史氏が登壇されました。

埼玉県女子自立更生センター「皆登会」の事務局長を務める堀田氏からは、自立更生プログラムや支援事例について紹介がありました。「皆登会」では、債務整理や保険加入などの行政手続き支援に加え、金銭管理・時間管理などの生活指導を通じた生活基盤づくりを実施しています。さらに、約 80 社の協力企業で職場体験を実施するなど、就労や住居、健康面まで含めた包括的な自立更生プログラムが整えられており、困難を抱える女性に寄り添う姿勢が印象的でした。

一般社団法人若草プロジェクト理事の牧田氏からは、若年女性たちを取り巻く社会的孤立の実態についてお話がありました。

一貫して印象的だったことが、人間関係の希薄さが女性たちへ与える影響の

大きさです。家族や地域との繋がりを失い孤立した若年女性が、居場所や生活手段を求める中で時には危険な環境へ追い込まれ、結果として権利意識を失ってしまう現実があるということに、大きな衝撃を受けました。

そういったお話の中で「風俗が福祉に見えてしまうこともある」という言葉が、セミナー後も個人的に強烈に印象に残っており、「居場所がある」という事実がいかに重要かを考えさせられました。

本セミナーでは、登壇者による講演に加えて、質疑応答でも多くの質問が寄せられ、活発な議論が交わされました。終始、参加者の本テーマに対する関心の高さがうかがえるセミナーとなりました。

今回ご登壇いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

東京 TS ネット学生サポーター 松田直也

